

## 桐生市総合戦略推進委員会の改善意見等に対する令和 4 年度当初予算への反映状況等について

### ■ 基本目標 1 : 地域の資源を活用した魅力ある雇用を創出する

事業名	意見内容	意見に対する反映状況等	担当課・室
新里支所地域活動推進事業	<p>新里支所地域活動推進事業について、新里町に地域おこし協力隊員を呼び込むと同時にどうしたら定着していくのかも同時進行で検討していく必要がある。</p> <p>現在実施している黒保根町での定着率の分析や定着率向上のための施策の検証を行い、例えば、農業であれば農地や栽培技術の取得、住居のケアなどに結びつけていくとよいのではないかと考える。</p>	<p><b>【新里支所市民生活課】</b> 地域おこし協力隊を新里地区で新たに 1 名採用するため募集をするとともに、黒保根地区で活動している協力隊員の活動や退任後の活動を参考に、定着に向けた活動を支援したい。 なお、現在、隊員の農業活動においては、令和 3 年度にドローン操縦資格を取得し、令和 4 年度には、ドローンによる農薬散布を行うスマート農業の導入に向け取り組んでおり、有効性やニーズ等を研究し、新里地区の農業振興につながるようサポートしてまいりたい。</p> <p><b>【企画課】</b> 地域おこし協力隊のミスマッチを防ぎ、定着率を向上するため、隊員希望者が一定の期間、協力隊の業務にお試しで従事する「地域おこし協力隊インターン」を新たに導入した。 また、現役隊員や任期終了後の隊員が市内で起業・事業承継できるよう必要な経費を支援する「地域おこし協力隊起業・事業承継支援補助金」の制度を創設した。</p>	<p>新里支所市民生活課</p> <p>企画課</p>

■基本目標2：人口の市外流出に歯止めをかけ、移住・定住を促進するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を目指す

事業名	意見内容	意見に対する反映状況等	担当課・室
観光推進事業	<p>観光推進事業について、桐生市と日光市は国道122号やわたらせ渓谷鐵道によりつながっており、現在もコロナ禍で難しい状況ではあるが、将来的な収束も見据えて、日光を訪れる観光客の数%でも取り込むことができるような誘客策を今から検討しておくとういと思われる。</p> <p>桐生市もコンテンツがたくさんあり、それをどのようにつなぐかが肝になると思うので、そういった施策が形になっていくとういのではないかと考える。</p> <p>振興局でも地域振興調整費を活用いただくなど応援できる部分もあるので、よろしく願いたしたい。</p>	<p>現在、桐生・みどり周遊観光推進協議会を立ち上げ、群馬県や日光市からのご意見も伺いながら、両市の観光コンテンツを生かした首都圏から日光への周遊観光メニューの検討と開発を実施予定である。今後、活用し得る補助制度等があれば、積極的に活用してまいりたい。</p>	観光交流課

■基本目標3：安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、若い世代の希望をかなえる

事業名	意見内容	意見に対する反映状況等	担当課・室
婚活に対する支援(0予算)	<p>婚活に対する支援(0予算事業)について、結婚から子育てについてだが、今は一人でも生きていけるし、かえって結婚すると自由がなくなり、面倒で、子育てにも経済的な負担も大きく二の足を踏んでしまう人もいると思う。したがって、経済的負担の軽減や養育のサポートはもちろん重要な施策なので、成功事例を参考にしたり、積み重ねたりすることが大事だと思われる。</p> <p>しかしながら、そもそもこういったネガティブな発想を変えていくことも大事だと考えるので、押し付けにならない形で、早い段階から仕事や趣味、友人と遊ぶこととは異なる、結婚や子育ての充実感や幸福感を知ってもらう機会を様々な場面でもっと創出していくことも一つの方法として考えられる。</p>	<p>本市では、保育料を国の基準額よりも引き下げるとともに、第3子以降の保育料無償化・副食費免除・給食費補助を実施するなど、子育てに対する経済的負担軽減策を実施するほか、令和3年度から養育のサポートが特に必要な妊産婦とその子等に対し、育児や家事の支援を行う養育支援訪問事業を開始し、子育て支援の充実を図っている。</p> <p>また、子育てに対する意識啓発については、生き生き市役所出前講座の中で、中学生・高校生を対象に、妊婦体験や、赤ちゃんの人形を使ったお風呂の入れ方・お世話の仕方が実習できる「子育て体験実習」を実施しており、今後も本事業の活用を推進するとともに、結婚・子育てに関する意識を啓発する機会の更なる創出について検討してまいりたい。</p>	企画課
子ども発達支援事業	<p>子ども発達支援事業について、発達に課題のある子どもだけでなく、ペアレントメンターなど、その親まで支援の手を広げていただきたい。</p> <p>また、発達障害についての市民の理解を広げる活動もしてほしい。</p>	<p>発達に課題のある子どもの親に対する支援については、専門職による発達相談会、発達相談や親子遊びを通じて療育支援を行う親子教室(バンビ)、保護者を対象とした支援プログラムであるペアレント・トレーニングを行っている。</p> <p>また、令和4年度から、発達障害のある子どもの子育て経験を活かし、同じような発達障害のある子どもの親に共感的な支援等を行うペアレントメンターの活動を支援するとともに、市民に広く周知するため、新たにペアレントメンターキックオフ研修会を開催する。</p> <p>普及・啓発に関する取組については、平成29年度まで発達障害について広く理解を深めるため市民対象の講演会を実施した。普及啓発活動の継続により市民の理解もある程度得られるようになり、支援につながりやすくなっている。現在は、実際の支援を行う保育士等を対象に支援の質の向上を図るた</p>	子育て相談課

		め、保育士等キャリアアップ研修会やティーチャー・トレーニングを行っている。	
子どもがつくるまちミニきりゅう事業	子どもがつくるまちミニきりゅう事業について、是非次年度以降も続けていただきたい。	令和4年度から、ミニきりゅう実行委員会が主催、桐生市が共催し、小学生を対象とした職業体験イベント「子どもがつくるまち ミニきりゅう」を継続して開催する。	青少年課

■基本目標4：広域的な視点かつ将来を見据えた、地域の特徴に応じたまちづくり

事業名	意見内容	意見に対する反映状況等	担当課・室
重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業	<p>重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業について、重伝建地区として整備が進む本町1～2丁目であるが、表看板となる本町通りの整備が中途半端であるように感じる。重伝建の趣旨である、その街ができた歴史や技術的な系譜などとともに残る街並みを保存することを考えると、本町1～2丁目については、時代を定めて徹底的な復元を図らなければ、本来の趣旨の他に観光の目玉にもなり得ないと考える。この地区には、江戸から昭和の建築物が、壊されずに残っているが、人口減少により荒廃も進んでいる。いったん壊してしまうと、もう桐生新町の町割り復活は不可能である。</p> <p>そこで、時代のコンセプトを定め、大堰用水の通水による西側水路の復活（天満宮境内も含む）や現在残る長屋などの近代化を行い、群馬大学の学生と高齢者の共住などを図り、生きたまちとしての保存を図ることについての地域理解を進めることを求める。</p> <p>さもなくば、近い将来、老朽化による建造物の破損を防ぐことができなくなり、重伝建群は消滅すると考えられる。これは、まさに市と住民との共創による本気の取り組みを期待できる大きなテーマであると考えており、大いに期待するところでもある。</p>	<p>令和4年度の予算としては、重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業の伝統的建造物群保存事業補助金として25,100千円（新規修理2件、基礎調査2件、修景事業1件、内部修理1件）となっている。</p> <p>また、令和4年度から、重伝建公開施設整備事業として、本町一丁目の旧眞尾邸において、重伝建地区への来訪者へまちの魅力を伝えるとともに、地区の交流拠点とするための施設である「(仮称)重伝建地区公開活用施設」の保存修理工事を実施する。</p> <p>平成24年7月9日に選定された桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区は、「近世初頭に形成された町並みを良く残し、特徴ある敷地利用形態をもち、主として近代以降の多種多様な伝統的建造物が色濃く残り、製織町として発展した歴史的風致を良く残し、我が国にとって価値が高い」と国より価値付けがされている。</p> <p>歴史的まちなみを後世に引き継ぐため、まちの特徴を生かしたまちなみ保存について、地区住民と共に取り組んでまいりたい。</p>	日本遺産活用室
軌道交通対策事業	<p>軌道交通対策事業について、令和2年度評価検証の中で、軌道系交通機関は、新型コロナウイルス感染症の流行により大幅な利用減の状況が戻らないと分析されている。現状でも大きな費用負担が発生する事業でもあり、今後も補助を継続するためには、将来の位置づけについて大幅な見直しが必要</p>	<p>沿線自治体と協調し、わたらせ渓谷鐵道及び上毛電鉄の現経営再建計画（H30～R4）の見直しを行い、令和4年度補助金額の変更を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響下においても感染防止の徹底を図りながら鉄道の安全運行を継続するため、収入や営業費、</p>	交通ビジョン推進室

	<p>と思われる。</p> <p>次期再建計画の中で支援の在り方を根本的に見直すことが述べられているが、これら軌道系交通機関の活用未来像を桐生としてまとめておくことが必要ではないか。市民へのモビリティマネジメントを持続可能性地域・ゆっくりリズムの観点から行うべき時が来ていると考える。</p> <p>わたらせ渓谷鐵道や上毛電鉄の電車が今の形のままで将来も走り続けるイメージではない、それぞれの路線が持つ特長を生かした位置づけを考える事が必要である。</p>	<p>収支計画の見直し等を行うとともに、鉄道を軸にした魅力的な地域づくりや地域活性化を図る役割を担うため、ウィズコロナ、アフターコロナの時代における利用客増と収入増に向けた取組を追加した。</p> <p>令和4年度中に策定する次期経営再建計画（R5～R9）においても、新型コロナウイルス感染症に対応した取組及び支援策を定めるとともに、群馬県が実施する鉄道支援のあり方検討会において、これからの公共交通体系の中で鉄道が担う役割や将来の新しい形について、抜本的な改革や先駆的な構想も含め検討を進める。</p>	
<p>移動手段に関する検討（0予算）</p>	<p>移動手段に関する検討（0予算事業）について、令和2年度評価検証の中で、高校統合後のバス交通網見直しの件が取り上げられている。交通については、自家用車の普及に伴い個人交通優先で考えられてきたが、SDGsや二酸化炭素削減を考えると、他の交通手段を主体にした交通体系の構築が必須になるとと思われる。なぜならば、現在の自動車は、使われる燃料もその車体を動かすためにほとんどが消費されていること、そして何よりその社会的費用が賄われていないことに気づかなければならない。</p> <p>市役所にも、市民の生活のための移動について、徒歩、自転車、次世代モビリティの導入など、一元的に考えて専門に取り組む部署の設置を求めたい。それにより、ゆっくりリズムを宣言する環境先進都市、またコンパクトシティを実現するまちづくりの実現に近づくとと思われる。</p> <p>例えば、現在、MAYUの運行は、観光客向けということで観光交流課が担当しているが、市民が使って利便性が良く、</p>	<p>令和4年度機構改革により、市の交通施策を一元的に取り組むべく「交通ビジョン推進室」を新設した。</p> <p>また、令和4年度から、市民の利便性向上のため、おりひめバスや鉄道などのほか、新たな移動手段を含めた持続可能な次世代の交通システムの構築を目指し、地域性を活かした桐生市独自の交通ビジョンの策定に着手していく。</p>	<p>交通ビジョン推進室</p>

	<p>まちに定着することで観光客も利用できるようにすべきで、3次交通として担当課を交通関係部署に一元化すべきではないかと提案する。</p> <p>次世代モビリティを活用した脱自家用車計画は、最終的に市民の経済的負担の低減、地域の付加価値流出防止にも寄与すると考えられる。</p>		
--	---	--	--